

漁業者と取り組む貝殻人工魚礁を利用した マダコを増やす取組の紹介

貝殻利用研究会（海洋建設株式会社）

漁業者が作るタコ魚礁

倉敷市の漁業者と共にマダコ資源を増大させることを目的にマダコの生息場・餌場・産卵場を強化した人工魚礁を開発。

貝殻充填・タコツボの取付・沈設作業を漁業者が行いマダコの保護区を造成しました。



マダコ魚礁



マダコ魚礁製作



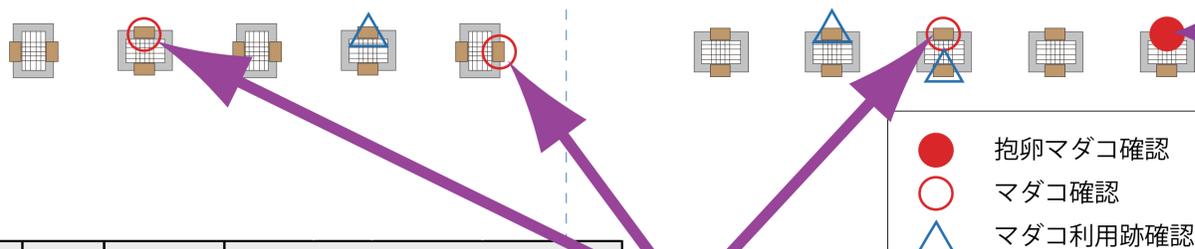
沈設作業

沈設2か月後には抱卵したマダコを確認!!

タコツボの中で抱卵個体を1杯、タコツボの中に隠れている個体を2杯、確認することができました。マダコ魚礁の利用率はなんと35%
マダコ資源を増やすことに貢献していました。

調査海域1

調査海域2



	基数	タコツボ数	マダコ		
			確認数(産卵数)	利用跡	利用率(%)
調査海域1	5	10	2	1	30
調査海域2	5	10	2(1)	2	40
全体	10	20	4(1)	3	35

※利用跡:タコツボ内に石や貝殻が入られた物
※利用率:(確認数+利用跡)÷タコツボ数×100

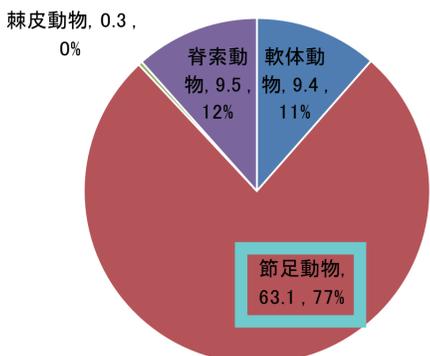


抱卵しているマダコ



タコツボを利用するマダコ

貝殻基質から出現した動物の重量組成



小型甲殻類



カサゴ幼魚



効果調査報告会を実施

※漁業者を初め市、町の担当者が参加

貝殻基質による餌料培養効果の確認